

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1990100149		
法人名	社会福祉法人清長会		
事業所名	しあわせホーム甲府		
所在地	甲府市城東3-7-11		
自己評価作成日		評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyo-yamanashi.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	甲府市北新1-2-12		
訪問調査日	平成23年1月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域の方々との関わりが多く持てるようボランティアの受け入れを多く行事に取り入れ、認知症の人の理解・認識をして頂いている。ホーム独自の歌や踊りを利用者と共に考え日々の機能訓練として行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

甲府市ふれあいサポーター・近隣住民のホーム協力者・洋裁教室や折り紙教室のボランティアなど地域の人の訪問が頻回にある。また、地域の老人クラブの会合や大正琴クラブの会場として、さらに地域住民の災害時避難場所として事業所を提供するなど、地域住民と積極的にかかわりを持ち、地域とのつながりを大切にしている。ホーム内研修や同法人内研修、さらに同法人の施設長やグループホーム管理者の助言・指導などによりサービスの質の向上が図られ、全体的に若い職員が多いが、皆しっかりとした考えを持っている。「笑顔」「思いやり」「利用者が幸せを感じられるケア」を常に心がけていて、ホーム全体が利用者の笑い声や弾んだ会話など活気に満ちている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

事業所名 しあわせホーム甲府

[セル内の改行は、(Altキー) + (E

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「夢と笑顔に満ちあふれた一人ひとりが地域との関わりを持ち、しあわせを感じるホーム」を理念としている。		新任職員には採用時研修で詳細に説明を行うほか、日常的には「相手を尊重し思いやる気持ちを持つ」等、理念をわかりやすく表現したシートを作り、毎日、朝の会で職員と利用者が一緒に読み合わせて理解・共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	いきいきねんりんピックや介護フェア、朝日町通りのフリーマーケットへの出店、朝日町「花水木」への出店・展示をしている他、多数のボランティアの来訪や事業所行事への参加も協力頂いている。		近隣住民であるホーム協力員・ふれあいサポーター等、ボランティアとの交流が頻回に行われている。事業所行事への住民の参加や、地域住民の災害時避難場所としての提供や、老人クラブの会合に事業所を利用してもらうなど、地域に開放し地域との関係づくりも積極的である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々のボランティアを取り入れたり推進会議や避難訓練などを通じ、事業所の運営・認知症の方との共存を理解・支援頂いている。		/	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度、定期的な会議を開催し、利用者・家族・地域代表・地域包括支援センター職員の参加があり、第三者からの意見を反映しながら事業所の報告・評価を頂いている。		地域代表や家族から防災ずきんや献立表の郵送について意見があり、改善が図られた。会議で出された意見は職員会議で検討するとともに、議事内容を居間兼食堂に掲示して利用者・家族・職員で共有している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	定期的な市役所への報告と甲府市地域包括支援センターの交流会・研究会に参加し、事業所の状況・報告を行いながら協力関係を築いている。		毎回、運営推進会議の議事録を直接届けに行き、報告・相談をする機会を設けている。入居継続が困難なケースについて地域包括支援センターと介護保険課に相談しながら解決を図るなど、市担当者との連携・協力関係が図られている。	

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を中心とし、研修会の参加や職員への「拘束ゼロ」の取り組みの認識が行えるよう周知徹底する場を設けている。	玄関については、傾斜のある外階段に続いているため、安全への配慮から、止むを得ず施錠しているが、利用者の意向に添って職員がいつでも外出に同行している。研修では職員に身体拘束に関する事前アンケートを行い、振り返り・意識化を図っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会への参加や職員会議を通じ職員全員が虐待防止に努めている。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を利用している方がいる為、職員全員で情報共有しながら学び、必要に応じ地域包括支援センターとの相談をし、支援を行っている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、本人・家族を含め、契約内容と重要事項説明書にもとづき説明を行い、利用について理解して頂くと同時に署名捺印をもらっている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	行事に合わせ家族に参加していただく機会を設け、常に事業所の様子を見て頂けるよう努めている。「家族会」などでも意見・要望を伺ったり第三者(ボランティア)からも無記名のアンケートを頂き、事業所内の掲示板に掲載し運営等に反映させている。利用者・家族からの相談・苦情等の対応については直接相談を受け付け、事務所内2か所に「相談・苦情ポスト」の設置も行っている。また、法人内にある第三者委員会も案内し利用できるよう説明を行っている。	年2回、家族会総会を開催している。数名の家族ごとに職員がそれぞれ加わり、意見・要望を話しやすい工夫をしている。無記名アンケートでは地震対応への不安の声寄せられたため、防災担当者による説明など対応が図られた。また、利用者組織として「友人会」があり、食事や入浴など生活全般について利用者から具体的に要望を聞く機会として活用されている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常に相談できる環境づくりに努め、個々の意見・要望等を聞き毎月開催する職員会議・リーダー会議等にて提案を反映し活かしている。	管理者による日々の声かけ、ケースシートの活用、定例の職員会議などにより、職員が意見を言いやすい環境づくりを行っている。入浴介助方法、夜勤者と早出勤者の業務連携に関して提案・要望が出され、即時に改善が図られた。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課などの個別面談を行い状況確認をし、各自が向上心を持てるよう適材適所を見極めている。働きやすい職場を目指し常に相談する機会を設け定期的な親睦会も実施している。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の新任研修・事業所内での研修・勉強会に参加し、サービスの向上に努めている。外部研修等も共有し、学べる環境づくりに努め職員会議等で報告・連絡している。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人内と連携を図り利用者と関わりながら職員と共に交流会を実施している。行事に合わせボランティア等の方々に参加協力して頂きネットワークづくりを行っている。			
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面接を行ったり、事業所の環境・様子を見学して頂いている。事前に情報を頂きながら、本人の意思を尊重し安心できる場を提供できるように努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前連絡を頂いたり、事業所見学をして頂き、事業所の環境・雰囲気を実際に感じて頂きながら、家族の意向を十分にふまえ信頼関係が持てるように努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者本人の希望と家族の不安や思いが必ず一致するとは限らないので、双方の意見や要望を十分に受け入れ、他サービスの利用も含めた利用の説明を十分に行い、いろいろな選択肢があることの情報提供も行っている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者一人ひとりの人格を尊重し、共に生活する中で喜怒哀楽を感じ学びながらお互いの生活を大切にし、共存できる関係が築けるよう努めている。			

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会等の来訪時には本人も交えながら日頃の様子をさりげなく報告し、状況に応じて連絡をしながら家族の協力のもと支援していけるよう信頼関係を築いている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居をきっかけに、親戚や知人・ご近所の方々との関係が途切れることがないよう、気軽にたずねられる環境づくりに努めている。また、電話等でも話ができる環境も整えプライバシーにも配慮している。	ホーム協力員や家族等の協力を得て、以前住んでいた場所やなじみの店に出かけるなど、つながりを継続できる支援が行われている。家族や友人に気軽に電話できるよう1階事務室に公衆電話を設置するなどの環境づくりもされている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日頃の生活の中で協力し作り上げる作業を取り入れ、お互いが親睦を深めていけるような工夫に努め、支え助け合いながら共に生活する喜びを共有できる環境づくりに努めている。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居時にサービス終了後の関係が断ち切らず常に相談を受け付けられる事をお伝えし、退居後も状況確認・情報交換しながら継続的に関わりが持てるよう支援している。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン作成時には本人・家族より意向を確認しプランに反映させている。また、日々の生活に中でも個々の意向にできるだけ添ったケアを行っている。	入居時面接でアセスメントを行い、その後は日々の会話・表情や、食事チェック表などで意向を把握している。把握した利用者の希望や意向は、ケースシートやケアカンファレンスで職員間の共有を図り、ケアに反映している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面接時に本人・家族より情報収集している。また、入居後も本人との会話の中や家族・知人の面会時などからも情報を得るよう努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活のリズム・身体状況に合わせて有する力を活かした支援を行っている。また、毎日の機能訓練・生活リハビリ・体操などで、機能低下しないよう努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング	ケアマネジャーが中心となり本人・家族・主治	利用者ごとに担当制になっていて、モニタリ		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)	外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	医・理学療法士・看護師・居室担当者より意見を持ち寄りケアプランを作成している。違った目線も必要のためアセスメント・モニタリングは居室担当で行っている。	ングは担当職員とケアマネジャーが行う。サービス担当者会議を経てケアプランの見直しが行われるが、評価表には利用者・家族の意見欄があり、日々のかかわりの中で把握した意向や職員の気づきをプランに反映できる仕組みがある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに沿った形で毎日個人ファイルに記録・記載し、職員間の情報共有を図っている。特記がある場合は連絡帳を活用し、統一したケアに努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同法人内に特別養護老人ホーム・ショートステイ・デイサービス・居宅支援事業所があるため、連携を図りながら本人・家族の状況に応じた、柔軟な対応に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	積極的にボランティアの受け入れを行っており多くの方が来訪し、日々の活力・楽しみに繋げている。介護フェアなどいろんなイベントにも参加して、事業所のPRを行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居より主治医を変更するのではなく、本人の病状や家族の希望に沿い、事業所の情報として「受診表」の作成をし、主治医との関わりを維持・継続していけるよう連携を図っている。事業所でも月1回の往診や必要に応じて精神科・歯科医との関係も保持している。	利用者・家族の希望に従い、2名は従前からのかかりつけ医へ通院し、他の利用者は協力医療機関からの往診となっている。受診結果については、受診連絡メモ・家族の報告・職員の同席により把握し、医師との協力・連携を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内の看護師を中心とし、往診看護師やかかりつけ看護師と情報を共有しながら、生活・身体状況の支援に努め、必要に応じ相談・助言を頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先へ出向き、本人の状況確認をし、医師・看護師・ソーシャルワーカーからの意見・情報交換を頂きながら、家族を含め相談し、早期退院ができるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)	外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に重度化や終末期に向けた方向として、同法人施設・特別養護老人ホーム入所申込の案内をさせて頂いたり、家族会を通じて事業所の方針と事業所でできることの説明をさせて頂き、随時、状況変化に対応ができるよう、連絡を密に行っている。また、地域包括支援センター・市役所関係者にも助言を頂き支援を行っている。	利用契約時に事業所の方針を説明するとともに、特別養護老人ホームの申し込みをしてもらっている。入居後は、納涼会など特養の行事へ利用者・家族が参加して事業所の様子を見てもらう取り組みや、状態変化の際には頻回の連絡や相談支援を行うなど、利用者・家族の安心と納得を得られる取り組みが行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変マニュアルを活用し対応を行っている。利用者名簿・職員連絡網の活用、ヒヤリハット・インシデントレポートの活用もし、事故防止委員会が中心となり対応・対策を検討している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を実施し、地域住民に協力員となって頂き、災害時・緊急時の協力を依頼・要請し、避難訓練時にも参加して頂いている。	地域の消防団員・ホーム協力員・家族の参加も得て3か月ごとに訓練を実施している。防災頭巾の形や職員が少ない時の対応方法について協力員から指摘があり、改良・改善が図られた。	招集・避難・誘導・待機時の対応なども含めた夜間想定避難訓練の実施を期待したい。また、災害時にホームが地域避難場所となった場合の対応方法についても検討することを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重するために認知症利用者に対する一人ひとりのケアを重要視し、職員会議や勉強会を通じプライバシーを損ねない言葉かけの統一も検討し対応を行っている。	トイレ誘導など、他の利用者に配慮して、さりげない言葉かけや対応がされていた。愛称による呼び名について、利用者の意向であり、愛称で呼ぶことで利用者の表情や言動が豊かになる効果はあるが、家族の気持ちや外部の人への配慮から「～さん」づけで呼ぶべきか、職員間で検討・苦慮しているところである。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選択肢を多く持てるように支援し、利用者の思いを傾聴し、見守りながらその力を見極め、自己決定ができるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にする為にも無理強制せず、レベル低下しないようにその日その時の本人の希望に添ったケアを支援している。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)	外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時には洋服の準備はできる限り本人と一緒にいき身だしなみやおしゃれを自己決定して頂き、地域協力のもと送迎付きの近所の美容室に出かけたり近所のブティックにも買い物にでかける。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	地元で収穫した野菜・果物を頂く機会が多く利用者に調理方法を聞きながら食事の準備と一緒にいき、一人ひとりの嗜好調査も行いながら希望や要望を取り入れるよう食事係を中心として行っている。片付けも職員と一緒にいける環境を提供している。	食堂兼台所の周りに居室が配置され、人のざわめきや匂いが食欲や五感を刺激する工夫がされている。嗜好調査をもとに献立作りを行ったところ食べ残しが減少するなど、個々の好みや希望に配慮した支援が行われている。利用者一人ひとりの持っている力や意欲を活かして、準備や片づけを一緒に行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事・水分量を把握し、毎食ごとに摂取量のチェック・記録を実施し栄養のバランスの確認を行っている。接種ペースも各々違うため「ごちそうさま」は統一せず本人の状況に合わせてケアを行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時及び毎食後に口腔ケアを実施し、本人の力を活かしながら仕上げ確認を職員側で援助している。また、歯科往診の際歯科医よりアドバイスや助言を頂き口腔内の衛生保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを職員全員で把握し、一人ひとりの状態に合わせた方法で排便を促し、失禁につながらないような支援を行っている。	排泄担当者を中心に、個々の利用者の排泄パターンや誘導時間、適した型など、ケア方法を職員間で検討・共有し、トイレで排泄できる支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックを行いながら個々の排便状況を把握し、一人ひとりに合わせた排便ができる時間や環境を提供し定期的な運動を取り入れ、水分補給での工夫を行いながら便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	健康状態を考慮したうえで利用者の希望やタイミングに合わせて入浴を支援している。	利用者の希望に応じて週2回・10時から3時の昼間帯に入浴している。利用者1名に職員1名が入浴介助にあたるため、密度の高いコミュニケーションのとれる良い時間となっている。	

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)	外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活パターンを理解し利用者のペースで入眠を促すよう支援している。状況に応じ職員と過ごし安心して安眠ができるよう環境づくりも提供している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医療関係書類は一冊の綴りにまとめ職員が常に服薬について把握できるようになっている。薬の変更等については確認ノート(ケースファイル)の活用や申し送りにて2重確認を行いながら症状変化等については記録と申し送りを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の気分や身体状況を見極め状態を勘案しながらできることの支援や、持っている力を活かした支援を考慮し、生活パターンが同じにならぬようメリハリをつけて支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	季節ごとの外出・個別外出を取り入れできるだけ本人の希望に添った支援が行えるよう心掛けている。気分転換が図れるよう隣にある同法人パン屋の喫茶コーナーへの立ち寄りも支援している。	食材の買い出し時に利用者も同行して本人の買い物をしたり、ふれあいサポーターの協力を得て個別に外出するなど、一人ひとりの希望に対応する支援が工夫されている。外出希望が多い場合などは職員が休日出勤するなど協力体制もできている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時にお金の管理について利用者・家族に十分に説明を行い、紛失やものどられ防止を防ぐためにも、一人ひとりの財布を預り、おこづかい帳の活用を家族にも確認をして頂き管理を行っている。必要に応じ買い物ができるような環境も整えている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取次ぎ・かけるなどの援助は常時行える環境になっており、必要に応じてプライバシーを保持するために公衆電話の活用も支援している。手紙のやり取りも束縛なく行えるよう援助している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じられるよう利用者を中心とした月間カレンダーや手作りの作品をフロア共用スペースに飾り、窓から外を眺められるような空間作りをしてソファの設置も提供している。また、行事やレクリエーション等に写真を掲示し、明るく居心地の良い雰囲気作りに努めている。	天井が高く、柔らかな照明は、空間の広さや温かさを感じさせた。居間兼食堂には、手作りのカレンダー、洋裁教室や折り紙教室でボランティアと利用者が一緒に作った作品、利用者のスナップ写真などが随所に飾られ、明るく賑やかな雰囲気を作っている。	

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	長椅子ソファを設置・活用したり席も譲り合えるような環境づくりに努めている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に利用者や家族と相談をし、本人が安心・安全に生活ができるような好みの物を取り入れ、環境変化をあまり感じないように配慮している。	寝具やカーテンなど備え付けのものが多く、入居前の生活スタイルや趣味の継続が図れるよう、使い慣れたソファを置いたり、好きな歌詞を部屋に貼るなど、その人らしく過ごせる居室づくりの工夫がされている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの力を見極め持っている力を活かしながら、その人らしい生活が送れるよう安全に配慮している。			